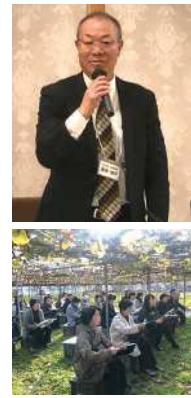


「都道府県水土里ネット 女性理事意見交換会」

令和5年11月15日(水) 16日(木)

企画写真提供 全国水土里ネット 水土里ネットながの

全国で土地改良団体の男女共同参画が進む中、初となる「都道府県水土里ネット女性理事意見交換会」が長野市において、全国水土里ネット・水土里ネットながのの共催により開催されました。



(右) 全国から女性理事が集まり、活発な意見交換がなされました。(左上) 講演を行った、全国水土里ネット室本隆司専務理事。(左下) 2日目の現地研修におけるブドウ農園。

意見交換会では女性理事からさまざまな意見が

初開催となる「都道府県水土里ネット女性理事意見交換会」は、水土里ネットながのの藤原忠彦会長の「さまざまなバツクボーンを持つ皆さまがこれからの水土里ネットを強くする」という呼びかけで幕を開けた。初日は、土地改良の歴史や最新のデータを交え、「食料安全保障と土地改良」をテーマに、全国水土里ネットの室本隆司専務理事が講演を行った後、女性理事による意見交換が行われ、2日目には、県営中山間総合整備事業信州高山地区・ブドウ農園として3代続く合同会社岡木農園で、先進的な取組を視察した。

意見交換は、水土里ネットながのの白鳥公晴専務理事の「土地改良団体の改革が叫ばれている。提言をいただきたい」という趣旨説明を経て始まった。テーマは、「土地改良団体に対する印象」「土地改良を変えていくための運動の展開。全国水土里ネットの室本隆司専務理事のファシリテーターのもと、日頃の経験を踏まえ、理事からはさまざまな意見が出た。

意見交換は、水土里ネットながのの白鳥公晴専務理事の「土地改良団体の改革が叫ばれている。提言をいただきたい」という趣旨説明を経て始まった。テーマは、「土地改良団体に対する印象」「土地改良を変えていくための運動の展開。全国水土里ネットの室本隆司専務理事のファシリテーターのもと、日頃の経験を踏まえ、理事からはさまざまな意見が出た。

【主な意見】

- ① 会合に出ているのはほとんど男性という印象。もっと女性が参加できる環境を作ることが必要。
- ② 農業や土地改良は男性社会。女性自身が表に出る機会がなく、土地改良に関する話題を知る機会も少ない。
- ③ 男女共同参画の取組への印象として、変わらなければという気持ちがあるが、同時に自分がある間はいいのであるという考えもあると感じる。その方たちの意識を変えていくことが必要。
- ④ 農業の基盤である土地改良への理解が不足している。土地改良を次世代につなぐために、幼い頃からの働きかけが

- ⑤ 重要。小学校への出前講座などに使用するツール(紙芝居)など、情報を共有してできることから取り組む。
 - ⑥ 土地改良施設(ため池や水路など)を田んぼのためだけでなく、地域の資源として意識し活用する。
 - ⑦ ワークショップなどの話し合いの場を設け、土地改良区の将来に向け、老若男女と一緒に考える場が必要ではないか。
- 【事務局より】**
理事に女性も男性もありません。しかしながら、長い間男性社会だった土地改良では登用される側も女性の理事ということで、注目されやりづらい面もあるかもしれません。組織を超えて集まり日頃の考えを発信していただくことも重要と考えます。
- 意見交換の場で提言いただいた、ブロックごとの意見交換会については、全国水土里ネットから各都道府県水土里ネットに令和6年の開催を提案したところからです。

意見交換で挙げた④「子どもの頃から土地改良に親しみを」において、次のような情報が提供されました。

■全国水土里ネット 星野恵美子理事(那須野ヶ原土地改良区連合専務理事)より提供



那須野ヶ原土地改良区連合(お米の神様 他4作 電子紙芝居)
農業を通して都市と農村はつながっています。そのような想いを込め、東京白百合女子大との連携により「環境教育に関わる研究会」を発足させました。地域の現状や歴史を伝え、大学生の感じた「那須野ヶ原ものがたり5作」を編纂し、児童文学作家の舟崎克彦氏の監修を経て、電子紙芝居制作に至りました。学校や地域の様々な活動に引っ張りだこです。



■水土里ネットふくい 川合久利子理事(川合農園共同代表、農家カフェ経営、アート教室主宰)より提供



足羽川堰堤土地改良区連合(足羽川の清流と美味しいお米 紙芝居)
「子どもたちや地域の人たちにもっと土地改良について知ってもらいたい」。足羽川堰堤土地改良区連合の吉川強前理事長から依頼され、紙芝居の絵を担当しました。地域の土地改良の歴史を知ること、堰や水路が身近になると思います。



■水土里ネットさいたま 藤原梯子理事(認定NPO法人 水のフォルム理事長)より提供



「私のまちに流れる水」作文コンクール(文集『水は流れている、つながっている』)
流域の水は都市の水も農業の水もつながっている、都市の水と同じように農業用水も理解する社会になってほしい、という思いを込めて、作文コンクールを始めました。(認定NPO法人の認定取得には毎年100名以上の寄附者、または、5年間の収入の2割以上の寄附が必要です。寄附者は納税額にもよりますが、寄附金の約4割が税控除されます)



その他、各土地改良区で行っている、小学生を対象とした出前講座や土地改良施設ツアー等の情報が寄せられました。